

家庭科「発達と保育」での幼児・保護者との交流授業

本校では、総合学科として「人間・福祉」系列を設置し、家庭や看護、福祉などの学習を展開しています。また、連携型中高一貫教育をベースに、家庭・地域とのつながりにより、これらの学習を深化させています。特に、能勢町の地域子育て支援センターとは、家庭科の授業を通じ、6年前から様々な交流を行っています。

今年度は、2年生の「発達と保育」の授業で、高校生が地域子育て支援センターで行われている「ピンキー教室」に参加している15組の2歳児・その保護者を本校に招き、9回の交流を行っています。

交流授業として、本校農場を散策したり、農場で作られた果実の収穫や試食、調理実習、手作りおもちゃを使った遊びなど行い、幼児の特徴を学ぶと同時に、保護者から育児についての話を詳しく聞かせてもらっています。

第8回目となる1月19日（水）は、写真のように、絵本の読み聞かせ・紙芝居、手作りおもちゃを使った遊びを行いました。

高校生は1年間、幼児や保護者と関わることで体験的に幼児の成長や特徴を理解していくことができます。また、異年齢間の交流は高校生を大きく成長させるとともに2歳児達や保護者の方にも能勢高生を身近に感じてもらう機会にもなっています。

このような総合学科の特徴を生かした地域との交流授業を、今後も続けていきたいと考えています。（家庭科担当教員）

